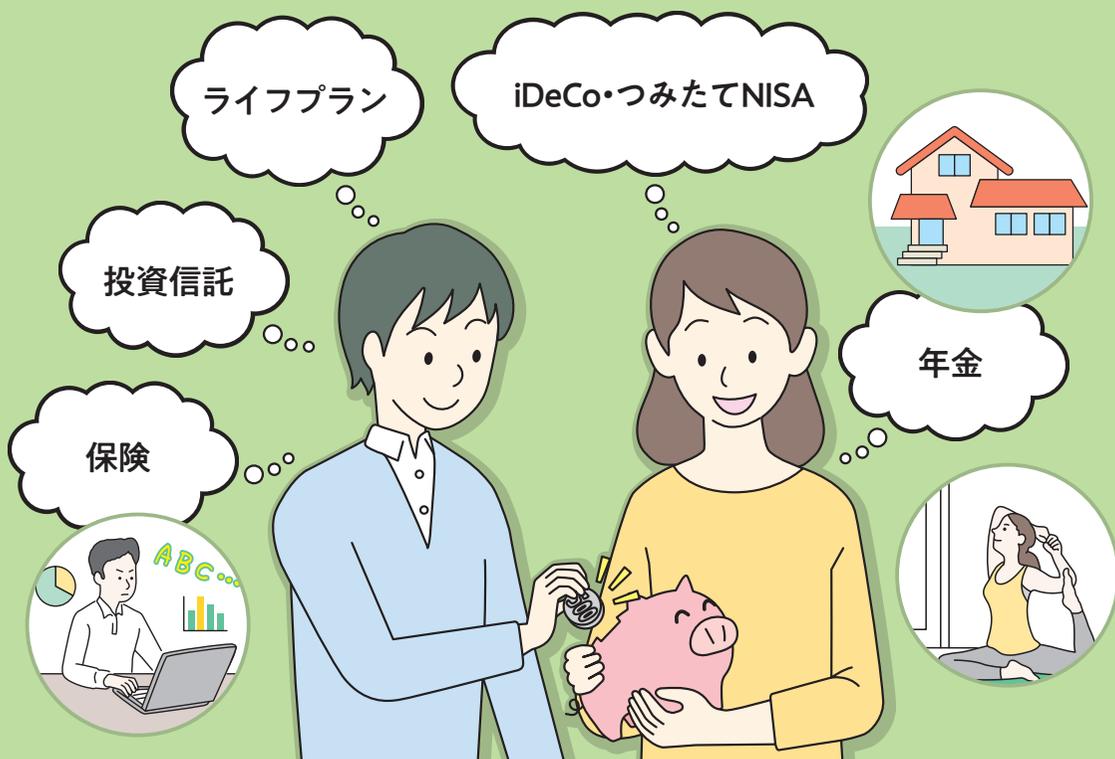


資産づくりの キホン



はじめに

先の見えない時代の中、お金をかしこく使い、貯め、運用する力がより必要とされます。

お金を使うも貯めるも自分次第。たとえ収入が同じでも、お金の運用の仕方によっては、将来の資産は違ってくることになります。

「資産づくり」は、自分や家族が豊かで幸せな人生を送るため、そして万一のときには生活を守るための大事な備えです。預貯金だけでなく、年金・保険・株式・不動産などの資産を上手に組み合わせて運用することで、リスクを分散できるだけでなく、より高い収益を得ることも期待できます。

本冊子は、これから資産づくりをはじめの方にもわかりやすく、給与明細の見方や貯金のコツから年金・保険・投資のはじめ方まで、ムリなく・ムダなく資産づくりを進めていただくために、これだけは知っておきたい大事なポイントをまとめました。

資産づくりは、“人生を描く”ことからはじまります。そこで、ライフプラン（人生設計）とファイナンシャルプラン（資金計画）の書き込み式のページをご用意いたしました。

また、資産づくりは、早くはじめるほど効果的です。小さな資産を安全に大きな資産へ育てるには、長い時間がかかるものです。この“時間”を味方につけることで、少額からコツコツ行うことができ、リスクも分散できる効果が期待できます。シミュレーション例もご確認ください。

あなたの夢を叶えるために欠かせない“資産づくり”を、さあ、ご一緒にはじめてみませんか？

目次

第1章 ≫ 「資産づくり」ってなに？

- 1 あなたの未来を描いてみよう！…………… 2
- 2 「資産づくり」が必要なワケ…………… 4
- 3 資産の状況を把握しよう！…………… 6
- 4 実際に計画を立ててみよう！…………… 8

第2章 ≫ 貯金・年金・保険・投資ってなに？

- 1 資産づくりの方法は4つ…………… 10
- 2 貯金のキホン…………… 12
- 3 年金のキホン…………… 14
- 4 保険のキホン…………… 16
- 5 投資のキホン…………… 18

第3章 ≫ 投資対象を知ろう！

- 1 株式のキホン…………… 20
- 2 債券のキホン…………… 22
- 3 投資信託のキホン…………… 24

第4章 ≫ 税制メリットを活用しよう！

- 1 「iDeCo（イデコ）」のキホン…………… 26
- 2 「NISA（ニーサ）」のキホン…………… 28

第5章 ≫ 資産づくりをはじめよう！

- 1 資産づくりを実践しよう！…………… 30
- 2 家計を振り返ろう！…………… 32

1



あなたの未来を描いてみよう!



「資産づくり」をはじめる前に、まずはあなたの未来を自由に描いてみましょう！
 やりたいこと、チャレンジしたいことなど、夢を叶えるためにはお金がかかります。
 そこで、いつまでに、どのくらいお金を準備したらよいかを知っておきましょう！

1 ライフスタイル暮らし



社会人のお金情報

一人暮らし費用例

家賃	8万円/月
食費	4万円/月
水道・光熱費	2万円/月
通信費	1万円/月
交通費	1万円/月
車関連費	6万円/月
交際費・その他	3万円/月
	etc...

3 趣味



趣味のお金情報 (目安)

旅行	3~30万円/回
ゴルフ	3万円/回
ヨガ	1万円/月
	etc...

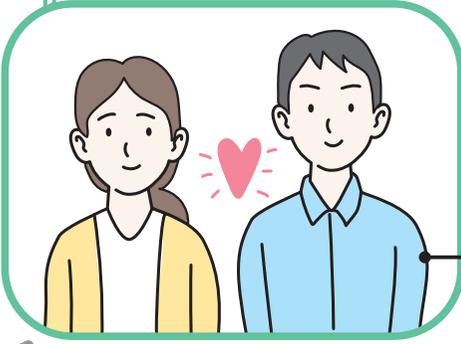
2 学びスキルアップ



スキルアップのお金情報 (目安)

ITスキル	2万円/月
英会話	1万円/月
ビジネススクール	3万円/月
	etc...

4 結婚



結婚のお金情報 (目安)

結納	180 万円	新居費用	70 万円
結婚式	360 万円	新婚旅行	70 万円
		etc...	

5 住まい



マイホームのお金情報

3,000万円の 新築マンション購入例

頭金	600 万円
購入費用	2,400 万円
諸費用	150 万円
引越・家具代	150 万円
	etc...

6 出産・子育て・教育



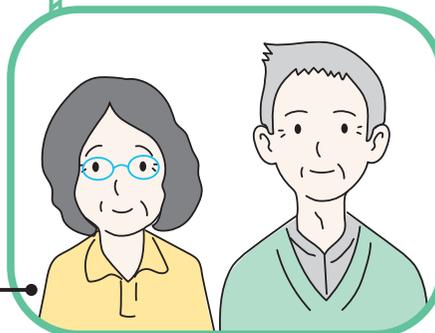
出産・子育て・教育のお金情報(目安)

出産費用	※1 50 万円
教育費	※2 50 万円
習い事	1 万円~/月
	etc...

※1 自己負担の目安

※2 子ども1人当たり年間目安(私立幼稚園)

7 老後



老後のお金情報(目安)

平均的な生活費	27 万円/月
ゆとりのある生活費	36 万円/月
入院時の医療費	2 万円/日
介護費用	7 万円/月
	etc...

※上記各費用は、総務省統計局「家計調査年報(家計収支編)2019年(令和元年)」、同「子供の学習費調査」(2018年)、公益財団法人日本生産性本部「レジャー白書」(2018年)、株式会社リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシィ結婚トレンド調査」(2020年)、公益社団法人国民健康保険中央会「統計情報」(2016年)、公益財団法人生命保険文化センター「令和元年度生活保障に関する調査」、各種スクールのウェブサイトなどのデータを参考に算出。なお、新型コロナウイルス感染症の流行を考慮し、影響が少ないと推測される年のデータを選定した。

2 「資産づくり」が必要なワケ



1 「資産づくり」はマイペースで

「資産づくり」とは、自分の資産（お金に変えることのできる財産）を増やすために、貯金や投資などを行うことです。とは言っても、「いきなり株で大儲けを狙う」ということではありません。

資産づくりは、毎月の給与やボーナスから、少額をコツコツと貯めていくことから始まります。

資産を増やすには、堅固な土台づくりが大切です。ムリなく・ムダなくマイペースで継続していきましょう。



2 どうして資産づくりが必要なのか？

資産づくりは、将来かかるお金を確保するために行います。2～3ページで見てきたように、夢を叶えるには何かとお金がかかるもの。早めに準備することで、お金だけでなく心のゆとりも生まれます。

「お金のかかる趣味も予定もないし、私には資産づくりは関係ないな」と思う人もいるかもしれませんが、長い人生では、突然収入が減ったり、病気で働けなくなったりする可能性もあります。老後の生活資金を確保するためにも、資産づくりは大切です。人生100年時代とはいえ、シニア世代になってから現役世代と同じように稼ぐのは難しいでしょう。だからこそ、早めの準備が必要なのです。

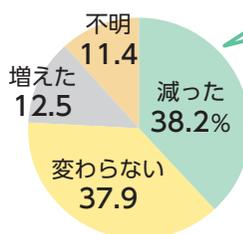
COLUMN

貯蓄が減ったのは生活費のせい？

厚生労働省の調査によると、前年と比べて貯蓄が減った人の約7割（69%）が、減額理由に日常生活費を挙げています。一方、結婚や旅行などのイベント支出は24%、土地・住宅購入費は7%程度という結果が出ています。

このように、貯蓄を取り崩す原因の約7割が生活費の不足です。日常生活費は、旅行などのイベント支出とは違い、日々の積み重ねです。一時的に赤字ということはあるかもしれませんが、毎月の家計はできるだけ「黒字」をキープしましょう。そのためには、日頃からお金の出入りを意識することが大切です。

貯蓄の増減状況



主な減額理由

- 日常生活費 7割
- イベント支出
- 土地・住宅購入費

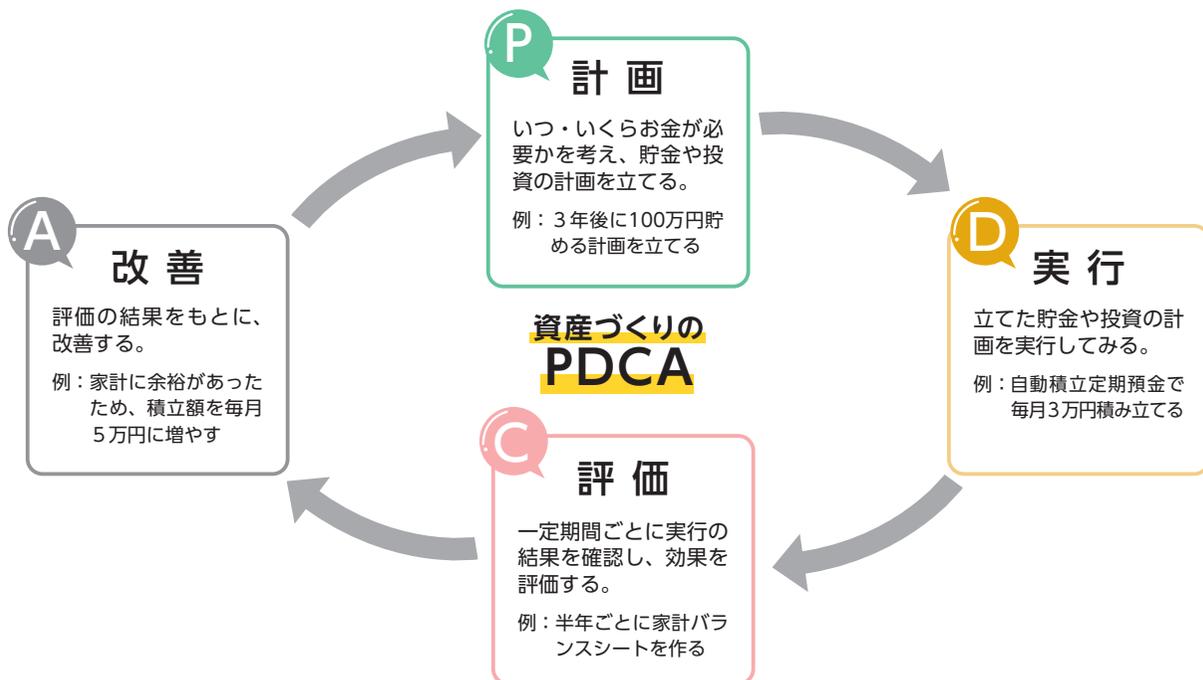
※減額理由は複数回答可能。

出典：厚生労働省「2019年 国民生活基礎調査の概況」をもとに作成

3 資産づくりの流れ

資産づくりをスタートしてみると、毎月の貯金目標が高すぎてムリがあったり、少なくて目標に足りなかったりすることもあります。このようなときは、そのまま放っておくのではなく計画の見直しをすることで、早い段階で修正することができます。

計画の見直しには、「PDCAサイクル」の活用がおすすめです。「PDCA」とは、「PLAN：計画」、「DO：実行」、「CHECK：評価」、「ACTION：改善」を指しています。この流れを定期的に繰り返し、計画の実現性を高めましょう。



4 資産づくりと計画

資産づくりを成功させるには、最初のステップ、「計画 (PLAN)」がポイントです。計画を立てるには、大きく「ライフプラン (人生設計)」と「ファイナンシャルプラン (資金計画)」の2つに分けて考えることが大切です。

S T E P 1 ライフプラン(人生設計) 設計図

- 💡 やりたいこと・叶えたいことは？
- 💡 いつまで働く？
- 💡 どこに住む？

S T E P 2 ファイナンシャルプラン(資金計画) お金

- 💡 夢を叶えるためには、「いつ」までに「いくら」必要？

計画を立てるためには現状の確認が大切です。次のページで、現在の資産の状況を把握しましょう。

1 ≫≫ 資産づくりの方法は4つ



1 資産づくりは4つの方法をバランス良く！

資産づくりの方法は、貯金・年金・保険・投資の4つに分けられます。

貯金

お金を
貯めること

- ① 定期預金
- ② 財形貯蓄



年金

将来お金を
受け取るために、
一定の保険料を
納めること

- ① 国民年金
- ② 厚生年金



保険

万一の病気や
ケガ、老後などに
備えるために、
保険料を払うこと

- ① 生命保険
- ② 損害保険



投資

利益を
得るために、
金融商品などに
資金をあてること

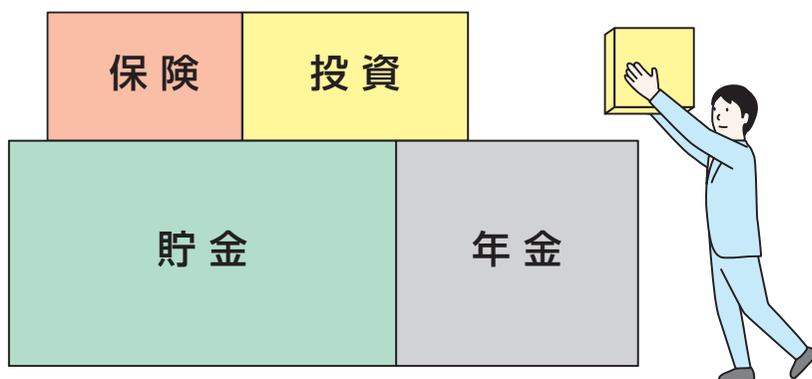
- ① 株式
- ② 投資信託



貯金・年金・保険・投資にはそれぞれ特徴があり、その強みを活かした資産づくりが大切です。

ポイントは、かたよりすぎず、この4つをバランス良く組み合わせることです。

組み合わせた後に、ほったらかしはNG。気づかないうちに金利や市場環境が変化し、損をしているということもあります。数ヶ月ごとに、定期的な見直しを忘れずに行いましょう。



2 貯金・年金・保険・投資のメリット・デメリット

実際に、どれを、どのように活用すればよいのでしょうか？ それぞれの主なメリット・デメリットを比較してみましょう。

種類	メリット	デメリット
貯金	<ul style="list-style-type: none"> ●自分のペースで預け入れ・引き出しができる ●原則として元本が保証されている 	<ul style="list-style-type: none"> ●金利が低く、大幅な資産増は見込めない ●物価が上昇すると、価値が下がってしまう
年金	<ul style="list-style-type: none"> ●制度や金融商品によっては、老後に受け取れる年金額を増やすことができる ●税制メリット*を受けられるものがある（第4章参照） 	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的には老後まで受け取れない ●途中で解約できる場合でも、一般に返戻率が低くなってしまふ
保険	<ul style="list-style-type: none"> ●自分で備えるよりも少額で、大きなリスクに備えることができる ●税制メリット*を受けられるものがある（17ページ参照） 	<ul style="list-style-type: none"> ●積立利率や返戻率が低いと、大幅な資産増は見込めない ●健康状態によっては保険料が高くなったり、加入できなかつたりする場合があります
投資	<ul style="list-style-type: none"> ●金融商品によっては、ハイリターンが期待できる ●税制メリット*を受けられるものがある（第4章参照） 	<ul style="list-style-type: none"> ●元本を下回る恐れがある ●投資の知識が必要である

※税制メリットとは、税金がかからなかったり、税金の負担が軽くなったりする税制優遇制度のことです。

このように、資産づくりの方法ごとにさまざまな特徴があります。次ページ以降で詳しく確認していきましょう。



COLUMN

いくら貯金したらいいの？

いったいいくら貯金したらいいのでしょうか？ 必要な貯金額は家族構成やライフスタイルによって変わってきますが、まずは生活費の6ヶ月分を目指してみましょう。

これは、病気や災害などの不測の事態に備えるためのお金です。なにかあったとき、すぐに国や自治体などの支援を受けられるとは限りません。例えば、仕事を失ったとしても、いわゆる失業手当がもらえるまでには数ヶ月かかる場合があります。

投資などをはじめるときには、急にお金が必要になったときにあわてて解約しなくてもいいように、手元にまとまった額を残しておきましょう。



2 ≫≫ 貯金のキホン



1 貯金（預金）といっても種類はいろいろ

よく、「貯金（預金）する」と言いますが、貯金（預金）とは、お金を貯めることです。預け先として、金融機関の普通預金のほかに、貯蓄預金、定期預金、積立定期預金、勤務先の財形貯蓄などがあります。

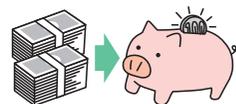
貯蓄預金

- 残高が定められた金額以上あると、金利が高くなる預金のこと
- 自由に出し入れできる
- 残高に応じて金利が高くなるタイプと、残高が一定額以上ある場合に一定の金利になるタイプがある



定期預金

- はじめに決めた一定の期間預けていると、金利が高くなる預金のこと
- 満期日まで基本的に引き出せない（解約すると中途解約利率が適用される）
- 預入時の金利が満期日まで適用されるタイプと、適用金利が一定期間ごとに変更されるタイプがある



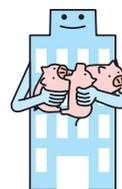
積立定期預金

- 計画的に毎月一定額を積み立てて、目標額を目指す定期預金のこと
- 満期までの金利は、積立てごとに確定する
- 途中で引き出せる（解約すると中途解約利率が適用される）
- 積立期間が終了して、据え置き期間を経過した日が満期日になる



財形貯蓄

- 会社が給与から天引きで行う貯蓄のこと
- 金利は金融機関や金融商品によって異なる
- 使用用途ごとに、自由に使える「一般財形貯蓄」、老後のための「財形年金貯蓄」、マイホーム取得のための「財形住宅貯蓄」の3種類に分けられる
- 財形年金・財形住宅は利息が原則非課税（途中引出は非課税のメリットが受けられない）

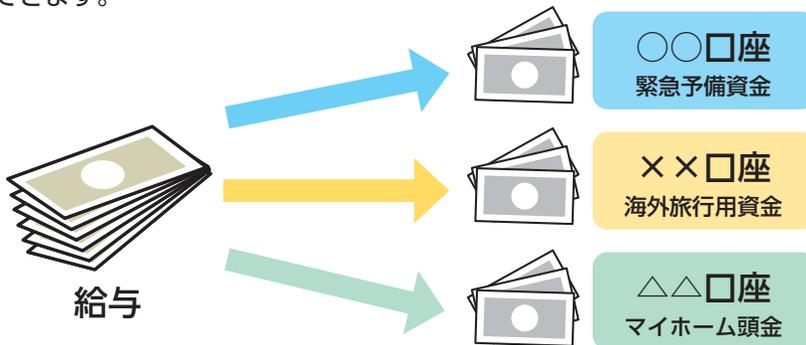


2 ▶ 貯められない体質を改善！

いざ貯めようと思っても、毎月なぜか貯められない……。そんなあなたは、「貯めてから、使う」習慣を身につけましょう！

家計簿（9ページコラム）を参考に家計を振り返り、貯金に回せる額を把握します。給料日が来たらすぐに、その額を貯金に回しましょう。つい使い切ってしまうがちなボーナスについても同様です。まずは、「もしも」の備えとして、生活費の6ヶ月分を目指してみましよう（11ページコラム参照）。

目的に応じて、複数の口座を使い分けするのもおすすめです。例えば、「緊急予備資金」、「海外旅行用資金」、「マイホーム頭金」など、名前をつけて管理すれば、ほかの用途のお金と区別することができます。



3 ▶ 「天引き」を活用して勝手に貯まる体質を目指そう！

「天引き」は、シンプル、かつ、すぐにはじめられる方法です。「天引き」には、「会社天引」と「口座天引」の2種類があります。「会社天引」は財形貯蓄など会社が給与から直接控除する仕組みのことで、「口座天引」は自動積立定期預金やスウィングサービス（自動振替）など自分で設定する仕組みのことです。

事前に天引きされていれば、給料日の口座には自動的に家計で使える分だけが残ります。この2つの仕組みを活用し、「勝手に貯まる体質」を目指しましょう！

